科　目	社会科学概論	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	渡邊　智寛	教員区分	一般教員

教 科 書	使用しない。適宜資料を配布する。
参 考 書	準備が必要なものはない。 授業中に紹介する参考文献や資料を開講期間中に一読することを推奨する。
成績評価	授業内小テスト 30%＋定期試験 70%（小テストを実施しない場合は定期試験のみで評価）
留意事項	具体的社会事象を扱う。最新の時事問題を取り上げることもあるため、普段から新聞・テレビ・ネット等を用いてニュースに触れておくことが望ましい。授業内容の一部変更もあり得るが、その際は事前に告知する。

科目の目標	さまざまな社会現象を学際的な視点から読み解く。身近でありながらも普段顧みられることの少ない法や行政制度を、既存の固着化したシステムとしてではなく、生きた人間関係のレベルに引き戻して考える。その他、犯罪者や病者、障害者などを取り巻く問題の検討を通じ、社会保障や公衆衛生についても理解を深める。
授業概要	授業教材としていくつかの映画を用いる（映像の放映はない）。社会現象や社会問題をそれらの映画がどのように扱っているかを参考にすることで、授業理解の助けとする。

日程

回　数	授業内容
1	社会科学とは何か――社会科学のアウトライン
2	社会とは何か――集団・組織、フォーマル組織・インフォーマル集団、社会化
3	通過儀礼――その社会的意味、分離→移行→結合のプロセス、死と再生のシンボリズム
4	社会統計――統計資料の読み方
5	現代社会生活と法①――憲法・刑法・刑事訴訟
6	現代社会生活と法②――刑事裁判の問題点
7	裁判員制度①――裁判員制度に関する詳細、市民参加型裁判の類型
8	裁判員制度②――判決・量刑、正当防衛・過剰防衛・執行猶予
9	社会と犯罪①――犯罪をめぐる解釈枠組み
10	社会と犯罪②――社会的排除・包摂
11	ネット社会と監視社会①――ネット犯罪と関連法規
12	ネット社会と監視社会②――監視社会と管理社会
13	社会保障と公衆衛生①――医療保険制度、高齢者介護問題
14	社会保障と公衆衛生②――国家試験関連過去問解説
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科　目	自然科学概論	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	３２
		履修年次	１年次
		実施学期	前期
教 員 名	岩坪　弘之	教員区分	一般教員

教 科 書	指定なし。
参 考 書	特になし。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	授業中に理解できなかったことがないよう質問はその場で挙手をしてその都度解決すること。理解をしたことは復習をして覚えること。復習をしてわからないことはそのままにせず質問しに来ること。

科目の目標	専門科目の勉強に向けて基礎知識をつける。ヒトの身体のしくみや体内反応を理解する力を養い、学習する習慣を身に付けていく。
授業概要	授業は板書を中心に必要であれば資料、スライドを活用する。授業開始時に論理的思考力を養う問題を解く。

日程

回　数	授業内容
1	四則演算
2	割合　濃度
3	図形
4	元素と周期表　原子の構造
5	イオン
6	化学変化と化学反応式
7	水溶液の性質（酸・塩基とｐH）
8	糖　蛋白質　脂質
9	拡散　浸透　ろ過
１０	ヒトのからだ
１１	電気
１２	運動と力
１３	光と音
１４	まとめ
１５	定期試験
１６	試験解説

科　目	人文科学	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	畠山　純一	教員区分	一般教員

教 科 書	浜島書店「基点◎現代文Ⅰ」
参 考 書	国語辞典、漢和辞典、ことわざ慣用表現辞典
成績評価	前半まとめ試験(20%)・定期試験(70%)・小テスト(随時実施)と提出物等(10%)
留意事項	1）毎時教科書を持参し、授業中に解答・確認を行い、読み込む。 2）演習問題を通して現代語の知識や学びに深い関心を持ち、身につける努力を続ける。

科目の目標	日本語の文章読解力を向上させるために、漢字・語句・慣用表現を学びその力を用いて適切に文章を読み取る。その上で段落メモの作成を行い、設問を解き、百字要約をする。解答と解説を確認して内容理解を深め、作者の考えや経験を自身の知識や体験として追体験する。
授業概要	1、漢字と言葉　読み書き・意味・関連語を一緒に学び語彙を広げる。 2、段落メモ　段落の中心文をまとめ、文章全体をまとめる。 3、読解問題　記述・選択問題をバランス良く解答する力を育てる。 4、百字要約　穴埋めなどで段落を踏んで記述力を身につける。

日程　注「授業内容」に掲示した教材は、他の作品に変更する事があります。

回　数	授業内容
1	授業内容の説明・他己紹介、1）【評論】細谷功「具体的＝わかりやすい？」を読む
2	2）【小説】まほろ三桃「ものづくりの魅力」を読む
3	3）【評論】原研哉「道具としてのデザイン」を読む
4	4）【随筆】又吉直樹「文学のおもしろさ」を読む
5	5）【評論】鷲田清一「とりとめもない交感」を読む
6	8）【評論】大澤正彦「ＡＩと人間の仕事」を読む
7	前半まとめ試験
8	前半まとめ試験解答と解説、9）【小説】小川糸「バーバとかき氷」を読む
9	10）【随筆】伊藤亜紗「手の人間関係」を読む
１０	11）【評論】山極寿一「人間の向社会行動とは」を読む
１１	12）【評論】永田和宏「若い時代の友人」を読む
１２	13）【小説】朝井リョウ「わらわない理由」を読む
１３	17）【評論】中西進「日本語の豊かさ」を読む
１４	定期試験範囲の総合演習と振り返り
１５	定期試験
１６	定期試験解答と解説、総合復習

科　目	人間学Ⅲ（心理学）	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義演習
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	３２
		履修年次	１年次
		実施学期	前期
教 員 名	齋藤　宏子	教員区分	一般教員

教 科 書	なし。毎回プリントを配布。
参 考 書	「人間関係論　第３版」石川ひろの他　医学書院
成績評価	グループワーク、振り返りシート、定期試験による総合評価とする。
留意事項	振り返りシートを毎回授業の最後に記入し、提出すること。

科目の目標	全人的医療を提供するために必要な心理学の基礎を理解し、応用できるようになる。
授業概要	医療現場における人間関係、そして人間と社会の関わりについて学ぶ。

日程

回　数	授業内容
1	第１部　人間関係基礎論　　第１章　人間関係の中の自己と他者
2	第１部　人間関係基礎論　　第２章　対人関係と役割
3	第１部　人間関係基礎論　　第３章　態度と対人行動
4	第１部　人間関係基礎論　　第４章　集団と個人
5	第１部のまとめ
6	第２部　人間関係をつくる理論と技法　　第１章　コミュニケーション
7	第２部　人間関係をつくる理論と技法　　第２章　カウンセリングと心理療法
8	第２部　人間関係をつくる理論と技法　　第３章　コーチング
9	第２部　人間関係をつくる理論と技法　　第４章　アサーティブ・コミュニケーション
１０	第２部のまとめ
１１	第３部　保健医療における人間関係　　第１章　保健医療チームの人間関係
１２	第３部　保健医療における人間関係　　第２章　患者や家族を支える人間関係
１３	第３部　保健医療における人間関係　　第３章　地域をつくる人間関係
１４	第３部のまとめ
１５	定期試験
１６	試験の解説、授業総括

科　目	解剖学Ⅰ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	３２
		履修年次	１年次
		実施学期	前期
教 員 名	矢倉　富子	教員区分	一般教員

教 科 書	「解剖学　改訂第２版」全国柔道整復学校協会監修　医歯薬出版株式会社
参 考 書	「プロメテウス解剖学コアアトラス」医学書院、「骨学のすゝめ」南江堂
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	１００％の出席を目指す。

科目の目標	（1）基本的な人体構造について理解する。 （2）骨格系の基本的な構造と機能について理解する。
授業概要	解剖学は、医療の道に進む全ての人が最初に学ぶ学問であり、人体構造と機能を理解する事は必須である。講義は、人体構造の知識の必要性を踏まえながら、組織学・発生学・画像解剖学などの関連学問と関係づけて行う。さらに小テストを適宜行い、基礎的な知識を身に付ける。

日程

回　数	授業内容
1	解剖学総論（A 意義と分類）
2	解剖学総論（B 細胞および組織、C 発生）
3	解剖学総論（D 器官系統、E 人体の区分）
4	骨格系（1 総論）1
5	骨格系（1 総論）2
6	骨格系（2 各論：a 脊柱）
7	骨格系（2 各論：b 胸郭）
8	骨格系（2 各論：c 上肢骨）
9	骨格系（2 各論：d 上肢の関節）
１０	骨格系（2 各論：e 下肢骨）
１１	骨格系（2 各論：f 下肢の関節）
１２	骨格系（2 各論：g 頭蓋）1
１３	骨格系（2 各論：g 頭蓋）2
１４	まとめ
１５	定期試験
１６	解答と解説、授業総括

科　目	解剖学Ⅱ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	３２
		履修年次	１年次
		実施学期	前期
教 員 名	田中　敦	教員区分	一般教員

教 科 書	「解剖学　改訂第２版」全国柔道整復学校協会監修　医歯薬出版株式会社
参 考 書	講義中に紹介する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	特になし。

科目の目標	運動器の基幹要素である筋肉の名称・付着部位・起始停止について理解する。
授業概要	全身の筋肉を既習した骨格系に付加する形で、その構成を俯瞰的に捉え、柔道整復師領域における主要な筋肉の位置・形態・特徴等を把握出来るように学習する。 進行状況により内容が変更となることがある。

日程

回　数	授業内容
1	オリエンテーション　概論
2	上肢の筋①（上肢帯・上腕）
3	上肢の筋②（上肢帯・上腕）
4	上肢の筋③（前腕）
5	上肢の筋④（前腕）（手の筋）
6	下肢の筋①（下肢帯の筋）
7	下肢の筋②（大腿の筋）
8	下肢の筋③（下腿の筋）
9	下肢の筋④（足の筋）
１０	骨格筋・頭部の筋・頸部の筋
１１	胸部の筋・呼吸運動
１２	腹部の筋
１３	背部の筋
１４	全範囲まとめ
１５	定期試験
１６	解答・解説

科　目	生理学Ⅰ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	３２
		履修年次	１年次
		実施学期	前期
教 員 名	小林　匠	教員区分	一般教員

教 科 書	「生理学　改訂第４版」全国柔道整復学校協会監修　南江堂
参 考 書	特に指定しない。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	授業をよく聞き、復習を必ず行うこと。

科目の目標	本科目においては、生理学の基礎、血液の生理学、循環器系、呼吸器系の機能について学ぶ。
授業概要	教科書に沿って生理学の知識を深めていく。

日程

回　数	授業内容
1	生理学の基礎：生理学とは、人体を構成する要素 ホメオスタシス、からだの化学的構成
2	生理学の基礎：細胞の機能的構造、DNA の複製とタンパク質合成
3	生理学の基礎：物質の移動（拡散、浸透、ろ過）と輸送
4	血液の生理学：血液の役割、血液の組成
5	血液の生理学：免疫機構
6	血液の生理学：血液型、血液の凝固
7	循環の生理学：心臓の機能
8	循環の生理学：循環の調節①
9	循環の生理学：循環の調節②
１０	循環の生理学：局所循環、脳脊髄液
１１	呼吸の生理学：呼吸器の機能的構造、換気
１２	呼吸の生理学：ガス交換、血液中の酸素の運搬
１３	呼吸の生理学：血液中の二酸化炭素の運搬、呼吸を調節するしくみ
１４	呼吸の生理学：特殊環境下の呼吸
１５	定期試験
１６	定期試験の解答と解説

科　目	基礎柔道実技Ⅰ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	３２
		履修年次	１年次
		実施学期	前期
教 員 名	川﨑　有子	教員区分	一般教員

教 科 書	
参 考 書	
成績評価	実技試験 100 点満点、出席評価（欠席：－５点、遅刻：－３点）とする。
留意事項	①約束やルールを守り自他の健康と安全に留意して真摯に取り組むこと。 ②見学の場合、柔道衣に着替えて授業内容のレポートを提出することで出席とする。 ③身体的問題が生じた場合は授業前に必ず相談すること。 ④柔道衣は洗濯して清潔にすること。 ⑤爪を切ること。 ⑥アクセサリー等は身に着けず、髪が長い場合は肩につかない程度に結ぶこと。

科目の目標	①柔道の精神的修養における徳性を養い、身だしなみを整えることができる。 ②礼法（立礼・坐礼・拝礼）を修得することで、内に礼の精神と、外に礼法を正しく守ることができる。 ③受身（後受身、横受身、前回り受身）を修得することで身を守るすべを身に着けることができる。 ④柔道の基本技術を学び、動きの変化に応じた動作から技に繋げることができるようになる。
授業概要	①柔道の「精力善用」「自他共栄」の精神から、柔道整復師としての資質（人格形成）、心身の鍛錬を目的とし、人としての振舞いの基本（対話・接し方）、礼儀作法の修得を最も重要とし進めていく。 ②クラスの友達と協力し積極的に取り組むことでコミュニケーション力を養い、技能・思考・判断・表現の４要素の観点から学びを行うことで相互的に学び合い、主体的に取り組む力を養っていく。 ③柔道の技から身体の動きを理解し、柔道整復の技術や手技、障害予防を考えた授業を行っていく。

日程

回　数	授業内容
1	１．オリエンテーション（授業概要について、柔道の歴史） ・柔道の「歴史」と「特性」を理解することができる。 ・柔道を「安全に実施するうえでの心得」について理解することができる。 ２．グループワーク（柔道とコミュニケーション）
2	１．グループワーク（柔道の外傷予防に必要なトレーニングを考える） ２．発表と実践
3	１．柔道衣の着方、礼法（立礼・坐礼・拝礼） ・柔道の「礼法」と「柔道衣の扱い方」を理解し実施することができる。 ・相手の人格を尊重し敬意を表する礼法の意義について理解し取組むことができる。 ２．柔道に必要なトレーニング

4	1．礼法（立礼・坐礼・拝礼） 2．受身の基本（後受身と横受身：長座・蹲踞・立位姿勢） 3．柔道に必要なトレーニング
5	1．礼法（立礼・坐礼・拝礼） 2．受身の基本（後受身と横受身：長座・蹲踞・立位姿勢） 3．柔道の基本動作（姿勢・組み方・進退動作・崩し・体捌き） 4．柔道に必要なトレーニング
6	1．礼法（立礼・坐礼・拝礼） 2．受身の基本（後受身と横受身：長座・蹲踞・立位、移動しながらの受身） （前回り受身：膝をついて回転） 3．柔道の基本動作（姿勢・組み方・進退動作・崩し・体捌き） 4．柔道に必要なトレーニング
7	1．礼法（立礼・坐礼・拝礼） 2．受身の基本（後受身と横受身：長座・蹲踞・立位姿勢、移動しながらの受身） （前回り受身：膝をついて回転、立位から回転） 3．受身の応用（ペアトレーニング） 4．柔道の基本動作（姿勢・組み方・進退動作） 5．柔道に必要なトレーニング
8	1．礼法（立礼・坐礼・拝礼） 2．受身の基本（後受身と横受身：長座・蹲踞・立位姿勢、移動しながらの受身） （前回り受身：膝をついて回転、立位から回転） 3．受身の応用（ペアトレーニング） 4．柔道の基本動作（姿勢・組み方・進退動作・崩し・体捌き・受けと取りの役割） 5．技の実践（膝車）両膝→片膝→中腰→立位 6．柔道に必要なトレーニング
9	1．礼法（立礼・坐礼・拝礼） 2．受身の基本（後受身と横受身：長座・蹲踞・立位姿勢、移動しながらの受身） （前回り受身：蹲踞、立位、移動しながら回転） 3．受身の応用（ペアトレーニング） 4．柔道の基本動作（姿勢・組み方・進退動作・崩し・体捌き・受けと取りの役割） 5．技の実践（膝車）両膝→片膝→中腰→立位 6．柔道に必要なトレーニング
１０	1．礼法（立礼・坐礼・拝礼） 2．受身の基本（後受身と横受身：長座・蹲踞・立位姿勢、移動しながらの受身） （前回り受身：片膝、立位、移動しながら回転） 3．受身の応用（ペアトレーニング） 4．柔道の基本動作（姿勢・組み方・進退動作・崩し・体捌き・受けと取りの役割） 5．技の実践（膝車）両膝→片膝→中腰→立位→動きながら 6．柔道に必要なトレーニング
１１	1．礼法（立礼・坐礼・拝礼） 2．受身の基本（後受身と横受身：長座・蹲踞・立位姿勢、移動しながらの受身） （前回り受身：片膝、立位、移動しながら回転） 3．受身の応用（ペアトレーニング） 4．柔道の基本動作（姿勢・組み方・進退動作・崩し・体捌き・受けと取りの役割） 5．技の実践（出足払）立位→動きながら 6．柔道に必要なトレーニング
１２	1．礼法（立礼・坐礼・拝礼） 2．受身の基本（後受身と横受身：長座・蹲踞・立位姿勢、移動しながらの受身） （前回り受身：片膝、立位、移動しながら回転） 3．受身の応用（ペアトレーニング）

	４．柔道の基本動作（姿勢・組み方・進退動作・崩し・体捌き・受けと取りの役割） ５．技の実践（大腰）立位→動きながら ６．柔道に必要なトレーニング
１３	昇段審査に基づいた実践 礼法（立礼・坐礼）、投技（膝車、出足払、大腰）
１４	実技試験１
１５	実技試験２
１６	試験解説、授業総括

科　目	柔道整復学総論Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	３２
		履修年次	１年次
		実施学期	前期
教員名	藤原　和人	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編　改訂第７版」全国柔道整復学校協会監修　南江堂
参考書	プリント資料を配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	１．全出席する。１回欠席すると授業についていけなくなる事を自覚する。 ２．予め教科書を読んで、読めない漢字を調べておく。 ３．復習はその日のうちに行う。 ４．授業中、私語は禁止とする。不明な点があれば挙手をしてその都度質問する。

科目の目標	１．解剖学を学びながら骨損傷の基礎を理解する。 ２．外傷が発生するメカニズムを理解する。 ３．学んだ内容を他者に説明できるようにする。
授業概要	骨損傷について教科書に沿ってスライドを活用し配布プリント、板書にて進めていく。 授業開始時に前回の復習テストを行う。進行具合により授業内容を変更する。

日程

回　数	授業内容
1	授業ガイダンス
2	骨の形態と機能①
3	骨の形態と機能②、骨損傷の概説
4	骨折の分類①
5	骨折の分類②
6	骨折の症状①
7	骨折の症状②
8	骨折の合併症①
9	骨折の合併症②
１０	骨折の合併症③
１１	小児骨折・高齢者骨折①
１２	小児骨折・高齢者骨折②
１３	骨癒合の日数、骨折の治癒過程
１４	骨折の予後、治癒に影響を与える因子
１５	定期試験
１６	解答と解説、授業総括

科　目	柔道整復学総論Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	３２
		履修年次	１年次
		実施学期	前期
教 員 名	宮内　淳一	教員区分	一般教員

教 科 書	「柔道整復学・理論編　改訂第７版」全国柔道整復学校協会監修　南江堂
参 考 書	必要に応じて参考資料を配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	欠席・遅刻をせず、説明をよく聞き、理解を伴った記憶をすること。復習を怠らないこと。

科目の目標	柔道整復術と柔道整復師の概説を知る。損傷に関する身体の基礎的状態と外力を理解する。関節の構造を学びながら、捻挫や脱臼についての基礎を理解する。
授業概要	授業の冒頭で単元ごとの復習テストを行う。

日程

回　数	授業内容
1	ガイダンス
2	人体に加わる力、損傷時に加わる力
3	各組織の損傷　関節の損傷(関節の構造と機能①)
4	各組織の損傷　関節の損傷(関節の構造と機能②)
5	各組織の損傷　関節の損傷(関節部損傷の概説・分類、鑑別診断を要する類症)
6	各組織の損傷　関節の損傷(関節構成組織損傷①)
7	各組織の損傷　関節の損傷(関節構成組織損傷②)
8	各組織の損傷　関節の損傷(関節構成組織損傷③)
9	各組織の損傷　関節の損傷(脱臼①)
１０	各組織の損傷　関節の損傷(脱臼②)
１１	各組織の損傷　関節の損傷(脱臼③)
１２	各組織の損傷　関節の損傷(脱臼④)
１３	各組織の損傷　関節の損傷(脱臼⑤)
１４	まとめ
１５	定期試験
１６	定期試験解説

科　目	柔道整復学総論Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	関口　将一	教員区分	一般教員

教 科 書	「柔道整復学・理論編　改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修　南江堂
参 考 書	プリント資料を配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	1．全出席する。1回休むと授業についていけなくなる事を自覚する。 2．教員から質問をするので授業に参加して答えられるようにする。 3．質問シート(大福帳)を利用して理解できなかったことをそのままにしない。

科目の目標	1．柔道整復師の業務を理解する。 2．解剖学を学びながら各組織損傷の基礎を理解する。
授業概要	各組織損傷の総論を教科書に沿って配布資料、板書、スライドにて進めていく。 適宜小テストを行う。 進行具合により授業内容を変更する。

日程

回　数	授業内容
1	ガイダンス
2	柔道整復師とは
3	柔道整復師の沿革、柔道整復師倫理綱領柔道整復師の業務範囲
4	柔道整復師の業務範囲
5	各組織の損傷　筋の損傷①
6	各組織の損傷　筋の損傷②
7	各組織の損傷　筋の損傷③
8	各組織の損傷　筋の損傷④
9	各組織の損傷　腱の損傷①
10	各組織の損傷　腱の損傷②
11	各組織の損傷　腱の損傷③
12	各組織の損傷　末梢神経の損傷①
13	各組織の損傷　末梢神経の損傷②
14	総復習
15	定期試験
16	解答と解説

科　目	柔道整復基礎実技Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	宮下　寧音	教員区分	実務教員

教 科 書	「包帯固定学　改訂第２版」全国柔道整復学校協会監修　南江堂
参 考 書	
成績評価	定期試験、出席状況（欠席：－５点、遅刻：－３点）、身嗜み、授業態度で評価する。
留意事項	実習着を着用する。施行部位に合わせて素肌が露出できるようにする。

科目の目標	この科目では固定法を理解し、柔道整復師として必要な基本包帯法の習得を目標とする。また、常に適切な態度で実習に臨むことにより医療人としての基礎を養う。
授業概要	巻軸包帯、晒などの材料を用いた包帯法を実演し説明する。学生が施術者、助手、患者モデルになり各包帯法をお互いに繰り返し実習する。医療人に相応しい態度、話し方で行う。

実務経験	柔道整復の実務に３年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床で治療に用いた包帯法を授業に取り入れる。

日程

回　数	授業内容
1	ガイダンス　材料確認
2	晒包帯作成・固定、三角巾による提肘
3	基本包帯法　－　巻軸帯の巻き方、巻き戻し
4	部位別包帯法　－　前腕部（折転帯）、肘部（亀甲帯）
5	部位別包帯法　－　肩部（麦穂帯）
6	部位別包帯法　－　膝部（亀甲帯）、股関節部（麦穂帯）
7	部位別包帯法　－　下腿部（折転帯・麦穂帯）
8	部位別包帯法　－　足関節（麦穂帯・三節帯・亀甲帯）
9	部位別包帯法　－　手関節（麦穂帯）、手指部（麦穂帯）
１０	冠名包帯法（ヴェルポー包帯、ジュール包帯）
１１	冠名包帯法（デゾー包帯）
１２	総復習１
１３	総復習２
１４	定期試験１
１５	定期試験２
１６	試験解説、授業総括

科　目	柔道整復基礎実技Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	３２
		履修年次	１年次
		実施学期	前期
教 員 名	関　凌眞　・　藤原　和人	教員区分	実務教員

教 科 書	「包帯固定学　改訂第２版」全国柔道整復学校協会監修　南江堂
参 考 書	「柔道整復学・理論編　改訂第７版」全国柔道整復学校協会監修　南江堂
成績評価	定期試験、出席状況（欠席：－５点、遅刻：－３点）、身嗜み、授業態度で評価する。
留意事項	実習着を着用する。テーピング施行部位に合わせ素肌を露出でき、テーピングを巻かれやすいよう準備する。下肢の場合、実習着の下はハーフパンツ等とする。

科目の目標	柔道整復師として必要なテーピング技能の習得を目標とする。
授業概要	ホワイトテープを用いてテーピングを実演し説明する。続いて、学生が施術者、患者モデルになりテーピングをお互いに繰り返し実習する。

実務経験	柔道整復の実務に３年以上従事している。
実務経験と授業の関連	接骨院にて施術に使用しているテーピングを授業で行う。

日程

回　数	授業内容	
1	ガイダンス	（関・藤原）
2	テーピングの基礎　アンダーラップの巻き方	（関）
3	部位別テーピング１　－　足関節①	（藤原）
4	部位別テーピング２　－　足関節②	（藤原）
5	部位別テーピング３　－　足関節③	（藤原）
6	部位別テーピング４　－　足関節・復習①	（関・藤原）
7	部位別テーピング５　－　足関節・復習②	（関・藤原）
8	部位別テーピング６　－　膝関節①	（藤原）
9	部位別テーピング７　－　膝関節②	（藤原）
１０	部位別テーピング８　－　手関節・手指	（関）
１１	部位別テーピング９　－　足底・足趾	（関）
１２	総復習１	（関・藤原）
１３	総復習２	（関・藤原）
１４	定期試験１	（関・藤原）
１５	定期試験２	（関・藤原）
１６	試験解説、授業総括	（関・藤原）

科　目	柔道整復診察法Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	３２
		履修年次	１年次
		実施学期	前期
教 員 名	神田　美樹	教員区分	実務教員

教 科 書	「柔道整復学・実技編　改訂第２版」全国柔道整復学校協会監修　南江堂 「解剖学　改訂第２版」全国柔道整復学校協会監修　医歯薬出版株式会社
参 考 書	「柔道整復学・理論編　改訂第７版」全国柔道整復学校協会監修　南江堂
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	実習着の下は素肌を露出できる衣類を着用し、実技実習受講についての注意事項に準ずる。

科目の目標	臨床の基礎となる部位名称、骨や筋・腱付着部などの正しい名称、位置を理解する。
授業概要	分骨模型を使用し、骨の名称や部位を確認し触診する。

実務経験	柔道整復の実務に３年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床で行っている診察方法を授業に取り入れる。

日程

回　数	授業内容
1	体表区分
2	上肢の骨の名称と位置①
3	上肢の骨の名称と位置②
4	上肢の骨の名称と位置③
5	上肢の骨の名称と位置④
6	下肢の骨の名称と位置①
7	下肢の骨の名称と位置②
8	下肢の骨の名称と位置③
9	下肢の骨の名称と位置④
１０	体幹の骨の名称と位置
１１	体表から触れる骨と筋の指標
１２	測定法（四肢長、周径）
１３	総復習
１４	定期試験①
１５	定期試験②
１６	試験解説、授業総括

科　目	解剖学Ⅴ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	３２
		履修年次	２年次
		実施学期	前期
教 員 名	北原　秀治	教員区分	一般教員

教 科 書	「解剖学　改訂第２版」全国柔道整復学校協会監修　医歯薬出版株式会社
参 考 書	「入門人体解剖学」南江堂、「プロメテウス解剖学コアアトラス」医学書院、授業中に配布する資料
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	１００％の出席を目指す。

科目の目標	神経系の基礎を理解し、中枢神経、末梢神経、感覚器の構造と役割を説明できる。
授業概要	中枢神経系、末梢神経系および感覚器の解剖学を講義する。

日程

回　数	授業内容
1	神経系の区分と特徴、神経組織および基礎
2	中枢神経：灰白質、白質、神経節と根、中枢神経系の区分、脳室系、髄膜と脳脊髄液
3	中枢神経：脳各部の形態と機能１　終脳、間脳
4	中枢神経：脳各部の形態と機能２　中脳、橋、延髄、小脳
5	中枢神経：脊髄の区分、伝導路、中枢神経練習問題
6	末梢神経：脳神経１
7	末梢神経：脳神経２、脳神経練習問題
8	末梢神経：脊髄神経１
9	末梢神経：脊髄神経２、皮膚分節
１０	末梢神経：脊髄神経練習問題、交感神経と副交感神経
１１	末梢神経：伝導路練習問題、感覚器：外皮、視覚器
１２	感覚器：聴覚器、味覚器、嗅覚器
１３	体表解剖、感覚器練習問題
１４	総復習および試験対策
１５	定期試験
１６	定期試験の解説および神経系講義総括

科　目	生理学Ⅳ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	３２
		履修年次	２年次
		実施学期	前期
教 員 名	竹内　梨紗	教員区分	一般教員

教 科 書	「生理学　改訂第４版」全国柔道整復学校協会監修　南江堂
参 考 書	特に指定しない。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	授業をよく聞き、予習・復習を必ず行うこと。予習は教科書の該当部分を必ず読むこと。配布資料と教科書を必ず持参すること。復習には教科書と配布資料を用いること。

科目の目標	生体は生命を維持するために、内部環境の恒常性を保っている。生理学では、われわれの身体がこの恒常性を維持するためにどのように働いているかを主として各器官系別に学ぶ。本科目の生理学Ⅳにおいては、神経系および感覚系の機能について学ぶ。
授業概要	教科書に沿ってスライドを用いながら講義を行い、生理学の知識を深めていく。必要に応じて確認テストを行う。講義の進度により授業内容が前後する場合がある。

日程

回　数	授業内容
1	神経の生理：神経系の構成要素、静止膜電位、活動電位
2	神経の生理：興奮の伝導と伝達
3	神経の生理：神経系の構成、脳の高次機能
4	神経の生理：睡眠と覚醒、学習と記憶
5	神経の生理：内臓機能の調節、視床下部による調節
6	神経の生理：自律神経系の構成
7	神経の生理：自律神経系による調節
8	神経の生理：内臓反射
9	感覚の生理：感覚の一般的な特性
１０	感覚の生理：視覚
１１	感覚の生理：聴覚、前庭感覚
１２	感覚の生理：味覚、嗅覚
１３	感覚の生理：体性感覚、内臓感覚
１４	感覚の生理：痛覚
１５	定期試験
１６	解答と解説、授業総括

科　目	生理学Ⅴ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	小林　匠	教員区分	一般教員

教 科 書	「生理学　改訂第４版」全国柔道整復学校協会監修　南江堂
参 考 書	特に指定しない。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	授業をよく聞き、復習を必ず行うこと。

科目の目標	生体活動における機械力の発生装置である「筋肉」についての構造と機能について理解する。 また、それらを統合的に調節管理する神経系の機能とその連携について理解する。 高齢者の生理機能と健常成人との違いについて理解する。 競技者の生理機能についての概要を把握トレーニングに伴う生体機能変化の特徴を理解する。
授業概要	教科書に沿って生理学の知識を深めていく。

日程

回　数	授業内容
1	筋の生理①：骨格筋の構造
2	筋の生理②：骨格筋の収縮と弛緩
3	筋の生理③：骨格筋と張力の関係・筋電図
4	筋の生理④：心筋・平滑筋
5	運動の生理①：運動に関係する主な中枢神経
6	運動の生理②：運動神経と運動単位・力の調節
7	運動の生理③：脊髄による反射とその調節
8	運動の生理④：脳幹による運動調節
9	運動の生理⑤：高次運動機能
１０	運動の生理⑥：運動関連脳部位間の接続
１１	高齢者、競技者の生理学的特徴・変化①
１２	高齢者、競技者の生理学的特徴・変化②
１３	高齢者、競技者の生理学的特徴・変化③
１４	１～１３回復習・確認・まとめ
１５	定期試験
１６	定期試験の解答と解説

科　目	運動学Ⅰ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	３２
		履修年次	２年次
		実施学期	前期
教 員 名	船渡　和男	教員区分	一般教員

教 科 書	「運動学　改訂第３版」全国柔道整復学校協会監修　医歯薬出版株式会社
参 考 書	「解剖学　改訂第２版」全国柔道整復学校協会監修　医歯薬出版株式会社 「生理学　改訂第４版」全国柔道整復学校協会監修　南江堂
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	

科目の目標	運動学は人間の身体運動を科学的に研究する学問分野であることを理解する。 身体運動にかかわる身体の機能と構造についての基本的な知識を習得し、神経－筋の統合処理によって生じる身体運動の仕組みについて理解することを目標とする。
授業概要	身体運動に関する機能解剖学、バイオメカニクスおよび神経生理学について学習する。 姿勢や運動を構成する神経－筋骨格系の関連性について学習する。 （姿勢と歩行運動・運動機能発達・運動学習（トレーニング）による運動技能獲得の過程）

日程

回　数	授業内容
1	運動学の目的・運動の表し方、身体運動と力学①
2	身体運動と力学②
3	身体運動と力学③
4	姿勢（姿勢の分類、重心、立位姿勢）
5	姿勢（立位姿勢の制御）
6	歩行（歩行周期、歩行の運動学的分析①）
7	歩行（歩行周期、歩行の運動学的分析②）
8	歩行（歩行の運動力学的分析、歩行時の筋活動①）
9	歩行（歩行の運動力学的分析、歩行時の筋活動②）
１０	歩行（歩行のエネルギー代謝、異常歩行）
１１	運動発達（神経組織の成熟、乳幼児の運動発達：反射・反応、出生早期にみられる反射）
１２	運動発達（乳幼児の運動発達：全身運動、歩行運動、上肢運動の発達）
１３	運動学習①
１４	運動学習②、第１・２・３・９・１０・１１・１２章補足およびまとめ
１５	定期試験
１６	定期試験解説

科　目	病理学Ⅰ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	３２
		履修年次	２年次
		実施学期	前期
教 員 名	竹内　梨紗	教員区分	一般教員

教 科 書	「病理学概論　改訂第３版」全国柔道整復学校協会監修　医歯薬出版株式会社
参 考 書	講義プリントを適宜配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	病理学が関連する全身の影響について常に考えること。

科目の目標	病理学の基礎を理解し、国家試験の出題傾向を把握する。
授業概要	教科書の重要項目について解説し、繰り返し問題演習を行う。

日程

回　数	授業内容
1	病理診断、染色法、退行性病変①　萎縮（分類）
2	退行性病変②　萎縮、変性（定義と分類）、壊死（壊死とアポトーシス）
3	代謝異常と疾病、循環障害①　循環系の概要
4	循環障害②　循環系の概要（充血、うっ血、虚血、出血）
5	循環障害③　血液循環障害（血栓症、塞栓症、梗塞）
6	循環障害④　リンパ循環障害（浮腫の成因）、進行性病変①　肥大（分類）
7	進行性病変②　再生（細胞の再生能力）、化生
8	進行性病変③　肉芽組織（創傷の治癒と異物の処理）
9	進行性病変④　移植、炎症における循環障害
１０	炎症①　形態学的変化、分類（滲出性炎、炎症における循環障害）
１１	炎症②　形態分類
１２	炎症と免疫機構について①
１３	炎症と免疫機構について②
１４	確認とまとめ
１５	定期試験
１６	解答と解説、授業総括

科　目	一般臨床医学Ⅰ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	河内　和宏	教員区分	一般教員

教 科 書	「一般臨床医学　改訂第3版」全国柔道整復学校協会監修　医歯薬出版株式会社
参 考 書	「内科診断学」医学書院、「内科学」朝倉書店
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	柔道整復学の各講義・実習と関連付けて学習すること。

科目の目標	重要な疾患概念の把握・理解と臨床に向けての知識の習得。
授業概要	教科書の項目を中心に解説する。授業内容は目安であり進み具合で変更する。

日程

回　数	授業内容
1	診察概論、診察各論　－　問診（医療面接）
2	視診①（全体を捉える）
3	視診②（局所の視診）
4	打診、聴診、触診
5	生命徴候（血圧、脈拍、呼吸、体温）とその異常
6	知覚検査（知覚の神経科学的システム、検査の意義、異常）
7	反射検査（反射の仕組みとその異常）
8	代表的臨床症状①（発熱、出血傾向、リンパ節腫脹）
9	代表的臨床症状②（意識障害、失神）
10	代表的臨床症状③（チアノーゼ、関節痛、肥満、るいそう、成長障害）
11	検査法（生命徴候の測定）
12	主要な疾患①（呼吸器疾患）
13	主要な疾患②（循環器疾患）
14	まとめ・復習
15	定期試験
16	試験の解説

科　目	外科学概論	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	渡邊　利明	教員区分	一般教員

教 科 書	「外科学概論　改訂第4版」全国柔道整復学校協会監修　南江堂
参 考 書	特になし。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	授業内容は進行状況等で変更もありうる。

科目の目標	柔道整復師として必要な外科学の知識を学ぶ。
授業概要	病態や治療、手技を解剖学的・外科学的側面から学ぶ。国家試験出題基準の項目を中心に行う。

日程

回　数	授業内容
1	損傷、創傷、熱傷
2	炎症と外科感染症
3	腫瘍
4	ショック
5	輸血、輸液
6	消毒と滅菌、手術
7	麻酔
8	移植と免疫
9	出血と止血
10	心肺蘇生法
11	脳神経外科疾患（頭部外傷）
12	胸部外傷
13	腹部外傷
14	まとめ
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科　目	基礎柔道実技Ⅲ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	３２
		履修年次	２年次
		実施学期	前期
教 員 名	田中　誠人	教員区分	一般教員

教 科 書	
参 考 書	
成績評価	定期試験、出欠席状況（欠席：－５点、遅刻：－３点）で評価する。
留意事項	実技中の安全管理に努めること。

科目の目標	精力善用、自他共栄の精神を学ぶ。 柔道整復師としての基本的な柔道の心・技・体について理解する。 ３年間で初段の習得を目指す。
授業概要	受身、投の形への理解・技術発展。柔道における精神・教えを説く。

日程

回　数	授業内容
1	投の形「礼法　手技（浮落）」
2	投の形「手技（浮落）（背負投）」投げ技の練習（打込み）
3	投の形「手技（背負投）（肩車）」投げ技の練習（打込み）
4	投の形「手技（肩車）腰技（浮腰）」投げ技の練習（打込み）
5	投の形「腰技（浮腰）（払腰）」投げ技の練習（打込み）
6	投の形「腰技（払腰）（釣込腰）」投げ技の練習（約束乱取り）
7	投の形「腰技（釣込腰）足技（送足払）」投げ技の練習（約束乱取り）
8	投の形「足技（送足払）足技（支釣込足）」投げ技の練習（約束乱取り）
9	投の形「足技（支釣込足）足技（内股）」投げ技の練習（約束乱取り）
１０	投の形「足技（内股）」投げ技の練習（約束乱取り）
１１	投の形「手技」復習
１２	投の形「腰技」復習
１３	投の形「足技」復習
１４	投げの形総合
１５	定期試験
１６	試験解説

科　目	柔道整復学各論Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	３２
		履修年次	２年次
		実施学期	前期
教 員 名	関　凌眞	教員区分	一般教員

教 科 書	「柔道整復学・理論編　改訂第７版」全国柔道整復学校協会監修　南江堂 「柔道整復学・実技編　改訂第２版」全国柔道整復学校協会監修　南江堂
参 考 書	資料プリントを配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	１．全出席する。 ２．配布資料を整理し各自管理する。 ３．不明な点はその都度質問する。 ４．進行状況により授業内容を変更することがある。

科目の目標	各部位の疾患への理解を深め、症例に関する知識を習得していく。
授業概要	各組織損傷を教科書に沿って配布プリントにて進めていく。小テストを適時行う。

日程

回　数	授業内容
1	鎖骨骨折①
2	鎖骨骨折②
3	肩甲骨骨折
4	上腕骨近位部骨折①
5	上腕骨近位部骨折②
6	中間復習
7	上腕骨骨幹部骨折
8	上腕骨遠位部骨折①
9	上腕骨遠位部骨折②
１０	上腕骨遠位部骨折③
１１	前腕骨近位部骨折①
１２	前腕骨近位部骨折②
１３	総復習①
１４	総復習②
１５	定期試験
１６	解答と解説

科　目	柔道整復学各論Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	３２
		履修年次	２年次
		実施学期	前期
教 員 名	武島　千明	教員区分	一般教員

教 科 書	「柔道整復学・理論編　改訂第７版」全国柔道整復学校協会監修　南江堂 「柔道整復学・実技編　改訂第２版」全国柔道整復学校協会監修　南江堂
参 考 書	資料プリントを配布する。
成績評価	定期試験、小テストで評価する。
留意事項	１．全出席する。 ２．配布資料を各自管理し、整理する。 ３．不明な点はその都度質問し、自己研鑽に努める。 ４．進行状況により授業内容を変更することがある。

科目の目標	１．外傷が発生するメカニズムを理解する。 ２．解剖学を学びながら各組織損傷の基礎を理解する。
授業概要	各組織損傷の各論を教科書に沿って、資料プリントおよび板書、スライドにて進めていく。 小テストを適時行う。

日程

回　数	授業内容
1	授業の進め方　科目の概要
2	前腕部の損傷　前腕骨幹部骨折①
3	前腕部の損傷　前腕骨幹部骨折②
4	前腕部の損傷　前腕骨幹部骨折③
5	前腕部の損傷　前腕遠位端部骨折①
6	前腕部の損傷　前腕遠位端部骨折②
7	前腕部の損傷　前腕遠位端部骨折③
8	手関節部の損傷　手根骨部の骨折①
9	手関節部の損傷　手根骨部の骨折②
１０	手指部の損傷　中手骨部の骨折①
１１	手指部の損傷　中手骨部の骨折②
１２	手指部の損傷　指骨の骨折①
１３	手指部の損傷　指骨の骨折②
１４	総復習
１５	定期試験
１６	解答と解説、授業総括

科　目	柔道整復学各論Ⅳ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	３２
		履修年次	２年次
		実施学期	前期
教 員 名	佐藤　篤史	教員区分	一般教員

教 科 書	「柔道整復学・理論編　改訂第７版」全国柔道整復学校協会監修　南江堂 「柔道整復学・実技編　改訂第２版」全国柔道整復学校協会監修　南江堂
参 考 書	適宜、資料プリントを配布する
成績評価	定期試験、適宜行う授業内での小テストで評価する
留意事項	１．全出席する。 ２．配布資料を各自管理し、整理する。 ３．不明な点はその都度質問し、自己研鑽に臨む。 ４．進行状況により授業内容を変更があり得る。

科目の目標	１．外傷が発生するメカニズムを理解する。 ２．解剖学を学びながら各組織損傷の基礎を理解する。
授業概要	各組織損傷の各論を教科書に沿って、資料プリントおよび板書、スライドにて進めていく。 小テストを適時行う。

日程

回　数	授業内容
1	鎖骨の脱臼
2	肩関節脱臼①
3	肩関節脱臼②
4	肩関節脱臼③
5	肘関節の脱臼①
6	肘関節の脱臼②
7	肘関節の脱臼③
8	手関節部の脱臼①
9	手関節部の脱臼②
１０	手関節部の脱臼③
１１	手関節部の脱臼④
１２	手根中手関節の脱臼
１３	中手指節関節，指節間関節の脱臼①
１４	中手指節関節，指節間関節の脱臼②
１５	定期試験
１６	解答と解説、授業総括

科　目	柔道整復各論実技Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	３２
		履修年次	２年次
		実施学期	前期
教 員 名	栗原　正道	教員区分	一般教員

教 科 書	「柔道整復学・実技編　改訂第２版」全国柔道整復学校協会監修　南江堂 「柔道整復学・理論編　改訂第７版」全国柔道整復学校協会監修　南江堂
参 考 書	資料プリントを配布する。
成績評価	定期試験、出席状況（欠席：－５点　遅刻：－３点）で評価する。
留意事項	実習着着用、医療人として相応しい身嗜みとし、毎回出席を原則とする。 私語厳禁、携帯電話の使用を原則禁止する。

科目の目標	教科書にある重要な知識、技能を理解し修得する。
授業概要	各脱臼の整復法・固定法と各部位の診察法・徒手検査法を繰り返し練習する。

日程

回　数	授業内容
1	肩鎖関節脱臼（上方脱臼）の整復・固定法
2	肩鎖関節脱臼（上方脱臼）の整復・固定法
3	肩関節脱臼（前方脱臼）の整復・固定法
4	肩関節脱臼（前方脱臼）の整復・固定法
5	肘関節脱臼（後方脱臼）の整復・固定法
6	肘関節脱臼（後方脱臼）の整復・固定法
7	肘内障の整復法
8	ＰＩＰ関節脱臼（背側脱臼）の整復・固定法
9	第１指ＭＰ関節脱臼（背側脱臼）の整復・固定法
１０	頚部・脊柱の徒手検査法
１１	総復習
１２	総復習
１３	定期試験①
１４	定期試験②
１５	解説
１６	授業総括

科　目	柔道整復各論実技Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	３２
		履修年次	２年次
		実施学期	前期
教 員 名	石川　大樹	教員区分	一般教員

教 科 書	「柔道整復学・実技編　改訂第２版」全国柔道整復学校協会監修　南江堂 「柔道整復学・理論編　改訂第７版」全国柔道整復学校協会監修　南江堂
参 考 書	配布プリント、PPT スライド
成績評価	定期試験、出席状況で評価する。（欠席：－５点　遅刻：－３点）
留意事項	実習着着用、医療人として相応しい身嗜みとし、毎回出席を原則とする。 実技中、私語は厳禁。不明な点があれば挙手をしてその都度質問すること。

科目の目標	骨折の転位をイメージすることができ、転位に対し理にかなった整復法・固定法が出来るようになる。
授業概要	各々が術者、患者、助手となり臨床現場を想定し整復法、固定法を行っていく。

日程

回　数	授業内容
1	授業ガイダンス・骨折の転位理解と整復法（総論）
2	鎖骨骨折 ― 整復法・固定法
3	上腕骨近位端骨折 ― 整復法・固定法
4	上腕骨顆上骨折 ― 整復法・固定法①
5	上腕骨顆上骨折 ― 整復法・固定法②
6	前腕遠位端骨折 ― 整復法・固定法①
7	前腕遠位端骨折 ― 整復法・固定法②
8	前腕遠位端骨折 ― 整復法・固定法③
9	手・指部の骨折 ― 整復法・固定法①
１０	手・指部の骨折 ― 整復法・固定法②
１１	手・指部の骨折 ― 整復法・固定法③
１２	手・指部の骨折 ― 整復法・固定法④
１３	総復習
１４	定期試験①
１５	定期試験②
１６	試験解説、授業総括

科　目	柔道整復臨床実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	３（年間）
		時 間 数	６４
		履修年次	２年次
		実施学期	前期
教 員 名	宮内　淳一　他	教員区分	実務教員

教 科 書	「柔道整復・実技編　改訂第２版」全国柔道整復学校協会監修　南江堂 「柔道整復・理論編　改訂第７版」全国柔道整復学校協会監修　南江堂
参 考 書	必要に応じて参考資料を配布する。
成績評価	レポート提出、出席状況、実習態度などで総合的に評価する。
留意事項	臨床実習要項を把握すること。

科目の目標	正確な鑑別能力を養いながら、基本的な臨床力を身に付けることを目的に学習する。
授業概要	臨床に必要な内容を理解した上で、臨床現場において実習を行う。

実務経験	柔道整復の実務に３年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を活かして基本的な臨床力を身に付けさせる。

日程

回　数	授業内容
１・２	接遇、受付業務、カルテ準備と確認、患者誘導、ベッドメイク、後片付け、タオルワーク、施術の準備、医療面接や施術の補助、バイタル・体力測定の補助、物理療法機器の操作
３・４	
５・６	
７・８	
９・１０	
１１・１２	
１３・１４	
１５・１６	
１７・１８	
１９・２０	
２１・２２	
２３・２４	
２５・２６	
２７・２８	
２９・３０	
３１・３２	

科　目	整形外科学Ⅱ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教 員 名	竹内　仁	教員区分	一般教員

教 科 書	「整形外科学　改訂第４版」全国柔道整復学校協会監修　南江堂
参 考 書	指定なし。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	授業内容は進行状況等で変更もあり得る。

科目の目標	柔道整復師として運動器疾患を扱ううえで整形外科学を十分に理解する。
授業概要	整形外科は別名「運動器外科」と言われるように各種運動器疾患を扱う科であり整形外科の扱う疾患の種類は多く、その中で代表的な運動器疾患について病態、診断、症状、治療などを概説する。

日程

回　数	授業内容
1	疾患別各論（感染性疾患）　急性化膿性骨髄炎、ブロディ骨膿瘍、骨関節結核
2	疾患別各論（骨及び軟部腫瘍）　悪性骨腫瘍、良性骨腫瘍
3	疾患別各論（骨及び軟部腫瘍）　悪性軟部腫瘍、良性軟部腫瘍
4	疾患別各論（非感染性軟部・骨関節疾患）　変形性関節症、関節リウマチ、痛風
5	疾患別各論（その他の関節炎、骨粗鬆症）　強直性脊椎炎、シャルコー関節、骨粗鬆症
6	疾患別各論（全身性の骨・軟部疾患）　軟骨無形成症、モルキオ病、くる病
7	疾患別各論（骨端症）　ブラント病、セーバー病、フライバーグ病
8	疾患別各論（四肢循環障害）　末梢動脈疾患、深部静脈血栓、静脈瘤
9	疾患別各論（神経・筋疾患）　神経麻痺、絞扼性神経障害、腕神経叢損傷
１０	疾患別各論（全身性神経・筋疾患）　脳性麻痺、脊髄腫瘍、脊髄損傷
１１	身体部位別各論（骨盤及び下肢の疾患）　骨盤・股関節の骨折手術、骨盤・股関節の損傷
１２	身体部位別各論（大腿・膝関節）　大腿・膝関節の骨折の手術、大腿・膝関節の損傷
１３	身体部位別各論（下腿・足関節）　下腿・足関節の手術、下腿・足関節の損傷
１４	身体部位別各論（足・足趾）　足・足趾の手術、足・足趾の損傷、足の変形
１５	定期試験
１６	解答と解説、授業総括

科　目	リハビリテーション医学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	３２
		履修年次	３年次
		実施学期	前期
教 員 名	小松　泰喜	教員区分	一般教員

教 科 書	「リハビリテーション医学　改訂第４版」全国柔道整復学校協会監修　南江堂
参 考 書	「見て知る リハビリテーション医学」丸善出版
成績評価	小テスト、定期試験で評価する。
留意事項	授業は教科書に沿って進めますので、事前に教科書を読んでから参加してください。

科目の目標	柔道整復師として必要なリハビリテーション医学（総論）の知識を学ぶ。
授業概要	・リハビリテーションの基礎医学、評価と診断を理解する。 ・リハビリテーション医学の各種療法について学修し、理解する。

日程

回　数	授業内容
1	リハビリテーションの概念・リハビリテーションの対象と障害者の実態
2	障害の階層とアプローチと障害者の実態（ICD と ICIDH、ICIDH から ICF へ・ICF-CY、ICF ｺｱｾｯﾄ、WHODAS２．０について）
3	リハビリテーション評価学（運動学と機能解剖、身体所見、小児運動発達の評価、ADL の評価、心理的評価、認知症の評価）
4	リハビリテーション評価学（電気生理学的検査、画像診断、運動失調）・リハビリテーション障害学（障害の評価、関節拘縮、関節の変形、筋萎縮）
5	リハビリテーション障害学（神経麻痺、痙縮、摂食嚥下障害、高次脳機能障害）・リハビリテーション治療学（障害の受容、廃用症候群、関節拘縮）
6	リハビリテーション治療学（ﾘﾝﾊﾟ浮腫、筋力強化、慢性疼痛、中枢神経と痙縮、ﾊﾞｲｵﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ、歩行練習、全身運動、ﾘｽｸ管理）
7	リハビリテーション医学の関連職種（医師・ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科専門医、理学療法士　他）・リハビリテーションの治療技術（理学療法、作業療法）
8	リハビリテーションの治療技術（言語聴覚療法、補装具）・高齢者のリハビリテーション（平均寿命と健康寿命、フレイル）
9	高齢者のリハビリテーション（認知症、高齢者虐待、パーキンソン病、脳卒中）・運動器のリハビリテーション（骨折の治療と後療法）
１０	運動器のリハビリテーション（骨粗鬆症、捻挫へのアプローチ）
１１	運動器のリハビリテーション（上肢損傷後症候群、下肢損傷後症候群）
１２	運動器のリハビリテーション（頸肩腕症候群、腰痛症の病態とアプローチ、肋骨骨折、アキレス腱断裂へのアプローチ）
１３	リハビリテーションと福祉（社会福祉、介護保険）・障害者スポーツ（障害者スポーツの概要、障害者スポーツの歴史、分類）
１４	まとめ
１５	定期試験
１６	試験解説・まとめ

科　目	基礎柔道実技Ⅴ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	３２
		履修年次	３年次
		実施学期	前期
教 員 名	佐藤　篤史	教員区分	一般教員

教 科 書	
参 考 書	
成績評価	定期試験、出席状況（欠席：－５点、遅刻：－３点）、授業態度で評価する。
留意事項	実技中の安全管理に努めること。

科目の目標	柔道整復師としての基本的な柔道の心、技について理解する。 併せて認定実技審査に向けての柔道実技を習得する。
授業概要	受身、立技、寝技への理解・技術発展。柔道における精神・教えを習得させる。

日程

回　数	授業内容
1	礼法１　受身１　投の形「浮落」　約束稽古１
2	礼法２　受身２　投の形「背負投」　約束稽古２
3	礼法３　受身３　投の形「肩車」　約束稽古３
4	礼法４　受身４　投の形「浮腰」　約束稽古４
5	礼法５　受身５　投の形「払腰」　約束稽古５
6	礼法６　受身６　投の形「釣込腰」　約束稽古６
7	礼法７　受身７　投の形「送足払」　約束稽古７
8	礼法８　受身８　投の形「支釣込足」　約束稽古８
9	礼法９　受身９　投の形「内股」　約束稽古９
１０	総合練習１
１１	総合練習２
１２	総合練習３
１３	総合練習４
１４	総合練習５
１５	実技試験
１６	試験解説、まとめ

科　目	衛生学・公衆衛生学Ⅱ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	３２
		履修年次	３年次
		実施学期	前期
教 員 名	石垣　佳希	教員区分	一般教員

教 科 書	「衛生学・公衆衛生学　改訂第６版」全国柔道整復学校協会監修　南江堂
参 考 書	適宜参考資料を配布する。
成績評価	中間テスト①20%、中間テスト②20%、定期試験 60%で評価する。
留意事項	特になし。

科目の目標	超高齢社会を迎え、医療従事者として一般医学の知識習得および公衆衛生の推進者として保健医療活動の実践能力養成を目標とする。
授業概要	基本的にスライド、ハンドアウトを用いる。

日程

回　数	授業内容
1	環境衛生（環境保健）：環境問題、環境要因、喫煙と健康、大気汚染
2	生活環境：水の衛生・水質汚染
3	食品衛生活動：栄養改善活動、廃棄物処理
4	医療倫理と医療安全、疫学：公衆衛生活動と倫理、医療事故、疫学の意義、調査方法
5	中間テスト①、解説
6	母子保健：ライフサイクルと母子保健、母子保健の指標
7	学校保健：学校保健の意義、学校保健対策、保健教育
8	産業保健：産業保健の目的、労働災害、職業病
9	成人・高齢者保健：各種疾患の病態、認知症高齢者保健対策、介護保険
１０	精神保健：精神の病気、精神保健活動
１１	地域保健と国際保健：地域保健活動、保健に関する国際協力と世界保健機関
１２	衛生行政と保健医療制度：衛生行政の概要、医療保険
１３	中間テスト②、解説
１４	１回～１３回までのまとめ
１５	定期試験
１６	解答と解説、授業総括

科　目	関係法規	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	１６
		履修年次	３年次
		実施学期	前期
教 員 名	藤木　裕樹	教員区分	一般教員

教 科 書	「関係法規　２０２４年版」全国柔道整復学校協会監修　医歯薬出版株式会社
参 考 書	資料を配布する。
成績評価	定期試験、小テストで評価する。
留意事項	１．１００％の出席を目指す。 ２．予習、復習を怠らない。 ３．授業中、私語は絶対しない。不明な点があれば挙手をしてその都度質問すること。 ４．ノート又は資料にメモをとること。

科目の目標	柔道整復師として必要な法の概念を理解する。各事項を確実に理解し国家試験への学力・理解力を養う。
授業概要	柔道整復師法を中心にその他の法を学ぶ。

日程

回　数	授業内容
1	序論：法の意義・体系、柔道整復師および柔道整復に関する法規、柔道整復師と患者の権利
2	柔道整復師法の目的、柔道整復師・施術所の定義
3	柔道整復師免許に関する要件・申請・手続
4	柔道整復師免許に関する要件・申請・手続と施術所について
5	柔道整復師の国家試験と業務
6	広告・名称の制限、罰則、各機関
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科　目	社会保障制度	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	１６
		履修年次	３年次
		実施学期	前期
教 員 名	藤木　裕樹	教員区分	一般教員

教 科 書	「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」全国柔道整復学校協会監修　医歯薬出版株式会社
参 考 書	資料を配布する。
成績評価	定期試験、小テストで評価する。
留意事項	１．１００％の出席を目指す。 ２．予習、復習を怠らない。 ３．授業中、私語は絶対しない。不明な点があれば挙手をしてその都度質問すること。 ４．ノート又は資料にメモをとること。

科目の目標	わが国における医療保険制度や医療経済の現状に関する知識を深める。
授業概要	１．柔道整復師に関係の深い社会保障制度の基本を学ぶ。 ２．柔道整復師業務における療養費の支給申請について学ぶ。

日程

回　数	授業内容
1	わが国の社会保障１（社会保障とは、社会保障制度とは）
2	わが国の社会保障２（医療保険制度とは）
3	わが国の社会保障３（診療報酬制度とは）
4	柔道整復師業務における療養費１（療養費制度の概要）
5	柔道整復師業務における療養費２（療養費の推移）
6	柔道整復師業務における療養費３（療養費の算定）
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科　目	臨床柔道整復学Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教 員 名	長島　茂之	教員区分	一般教員

教 科 書	「柔道整復学・理論編　改訂第７版」全国柔道整復学校協会監修　南江堂
参 考 書	「柔道整復学・実技編　改訂第２版」全国柔道整復学校協会監修　南江堂 「解剖学　改訂第２版」全国柔道整復学校協会監修　医歯薬出版株式会社
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	１．教科書を持参すること。 ２．復習を心がけること。 ３．不明な点があれば授業中や授業の終わりに質問すること。

科目の目標	柔道整復学理論（総論）を学習し、各論に繋がる知識を更に深め理解する。
授業概要	・スライドや資料を使い教科書の解説を行う。 ・柔道整復学理論（総論）の問題演習を行い、重要な点の解説を行う。

日程

回　数	授業内容
1	人体に加わる力・骨の損傷①、問題演習１
2	骨の損傷②、問題演習２
3	骨の損傷③、問題演習３
4	骨の損傷④、問題演習４
5	骨の損傷⑤、問題演習５
6	関節の損傷①、問題演習６
7	関節の損傷②、問題演習７
8	関節の損傷③、問題演習８
9	筋の損傷、問題演習９
１０	腱の損傷、問題演習１０
１１	末梢神経の損傷、問題演習１１
１２	診察、問題演習１２
１３	整復法、問題演習１３
１４	外傷予防、問題演習１４
１５	定期試験
１６	解答と解説、授業総括

科　目	柔道整復学総合Ⅰ①	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単 位 数	8（前期）
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教 員 名	田中　敦	教員区分	一般教員

教 科 書	「解剖学　改訂第２版」全国柔道整復学校協会監修　医歯薬出版株式会社
参 考 書	
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	遅刻、欠席をしないこと。予習復習を欠かさないこと。ノートを用意すること。

科目の目標	柔道整復師が臨床において診察をする際に必要な基礎的知識を身につける。選択肢を掘り下げていくことで他分野との共通点をみつけ総合力を身につける。
授業概要	授業は講義形式で行う。適宜小テストをする。

日程

回　数	授業内容
1	柔道整復学　基礎的知識１
2	柔道整復学　基礎的知識２
3	柔道整復学　基礎的知識３
4	柔道整復学　基礎的知識４
5	柔道整復学　基礎的知識５
6	柔道整復学　基礎的知識６
7	柔道整復学　基礎的知識７
8	柔道整復学　基礎的知識８
9	柔道整復学　基礎的知識９
１０	柔道整復学　基礎的知識１０
１１	柔道整復学　基礎的知識１１
１２	柔道整復学　基礎的知識１２
１３	柔道整復学　基礎的知識１３
１４	柔道整復学　基礎的知識１４
１５	定期試験
１６	解答と解説、授業総括

科　目	柔道整復学総合Ⅰ②	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単 位 数	8（前期）
		時 間 数	３２
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教 員 名	春日　貴之	教員区分	一般教員

教 科 書	講義資料を配布する。
参 考 書	「柔道整復学・理論編　改訂第７版」全国柔道整復学校協会監修　南江堂
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	柔道整復師としての臨床的な知識を再確認する授業なので欠席をしないこと。

科目の目標	柔道整復師が診察をする際に必要な応用的知識を身につける。これにより医療面接や鑑別診断を的確に行えることを目標とする。
授業概要	国家試験過去問題を使用し柔道整復師として必要な知識レベルを確認する。また重点的に理解しなくてはいけない内容を確認する。

日程

回　数	授業内容
1	柔道整復学　総論　応用復習１
2	柔道整復学　総論　応用復習２
3	柔道整復学　総論　応用復習３
4	柔道整復学　総論　応用復習４
5	柔道整復学　総論　応用復習５
6	柔道整復学　総論　応用復習６
7	柔道整復学　総論　応用復習７
8	柔道整復学　総論　応用復習８
9	柔道整復学　総論　応用復習９
１０	柔道整復学　総論　応用復習１０
１１	柔道整復学　総論　応用復習１１
１２	柔道整復学　総論　応用復習１２
１３	柔道整復学　総論　応用復習１３
１４	柔道整復学　総論　応用復習１４
１５	定期試験
１６	解答と解説

科　目	柔道整復学総合Ⅰ③	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単 位 数	8（前期）
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教 員 名	岩坪　弘之	教員区分	一般教員

教 科 書	講義資料を配布する。
参 考 書	「生理学　改訂第４版」全国柔道整復学校協会監修　南江堂 「第２２回～第３１回　徹底攻略　国家試験過去問題集」医道の日本社
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	柔道整復師としての臨床的な知識を再確認する授業なので欠席をしないこと。

科目の目標	柔道整復師が臨床において治療をする際に必要な臨床的知識を身につける。これにより医療面接や鑑別診断を的確に行えることを目標とする。
授業概要	国家試験過去問題を参考にしながら、柔道整復師として必要な知識レベルと重点的に理解しなくてはいけない内容を確認する。

日程

回　数	授業内容
1	柔道整復学　臨床的知識１
2	柔道整復学　臨床的知識２
3	柔道整復学　臨床的知識３
4	柔道整復学　臨床的知識４
5	柔道整復学　臨床的知識５
6	柔道整復学　臨床的知識６
7	柔道整復学　臨床的知識７
8	柔道整復学　臨床的知識８
9	柔道整復学　臨床的知識９
１０	柔道整復学　臨床的知識１０
１１	柔道整復学　臨床的知識１１
１２	柔道整復学　臨床的知識１２
１３	柔道整復学　臨床的知識１３
１４	柔道整復学　臨床的知識１４
１５	定期試験
１６	試験解説

科　目	柔道整復学総合Ⅰ④	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単 位 数	8（前期）
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教 員 名	田中　敦	教員区分	一般教員

教 科 書	「解剖学　改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修　医歯薬出版株式会社
参 考 書	
成績評価	定期試験と小テストで評価する。
留意事項	遅刻、欠席をしないこと。予習復習を欠かさないこと。ノートを用意すること。

科目の目標	柔道整復師が臨床において治療をする際に必要な臨床的知識を身につける。これにより医療面接や鑑別診断を的確に行えることを目標とする。
授業概要	授業は講義形式で行う。適宜小テストをする。

日程

回　数	授業内容
1	柔道整復学　組織損傷　各論復習1
2	柔道整復学　組織損傷　各論復習2
3	柔道整復学　組織損傷　各論復習3
4	柔道整復学　組織損傷　各論復習4
5	柔道整復学　組織損傷　各論復習5
6	柔道整復学　組織損傷　各論復習6
7	柔道整復学　組織損傷　各論復習7
8	柔道整復学　組織損傷　各論復習8
9	柔道整復学　組織損傷　各論復習9
10	柔道整復学　組織損傷　各論復習10
11	柔道整復学　組織損傷　各論復習11
12	柔道整復学　組織損傷　各論復習12
13	柔道整復学　組織損傷　各論復習13
14	柔道整復学　組織損傷　各論復習14
15	定期試験
16	試験解説

科　目	柔道整復応用実技Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	３２
		履修年次	３年次
		実施学期	前期
教 員 名	春日　貴之	教員区分	一般教員

教 科 書	「柔道整復学・実技編　改訂第２版」全国柔道整復学校協会監修　南江堂
参 考 書	「認定実技審査要領　令和４年度改訂版」公益財団法人柔道整復研修試験財団
成績評価	実技試験、出席状況（欠席：－５点、遅刻：－３点）で評価する。
留意事項	実習着を着用。爪、装飾品などの身嗜みに留意。

科目の目標	理論で学んだ内容を実技に取り入れながら学習し、臨床に応用できる技術を習得する。
授業概要	認定実技審査の課題を中心に実技実習を行い、理論と実技の組合せで理解力を深める。

日程

回　数	授業内容
1	第２指 PIP 関節背側脱臼の固定〔アルミ副子背側固定〕
2	第５中手骨頸部骨折の固定〔アルミ副子掌側固定〕
3	鎖骨骨折の固定〔Sayre テープ固定〕
4	肩鎖関節上方脱臼の固定〔ロバート・ジョーンズ固定〕
5	肩関節前方脱臼の固定〔局所副子、三角巾固定〕
6	肘関節後方脱臼の固定〔クラーメル副子、三角巾固定〕
7	コーレス骨折の固定〔クラーメル副子、局所副子、三角巾固定〕
8	上腕骨骨幹部骨折の固定〔ミッデルドルフ三角副子固定〕
9	アキレス腱断裂の固定〔クラーメル副子固定〕
１０	下腿骨骨幹部骨折の固定〔クラーメル副子固定〕
１１	肋骨骨折の固定〔さらしと厚紙副子固定〕
１２	総復習①
１３	総復習②
１４	定期試験①
１５	定期試験②
１６	定期試験解説、まとめ

科　目	柔道整復応用実技Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	３２
		履修年次	３年次
		実施学期	前期
教 員 名	関口　将一	教員区分	一般教員

教 科 書	「柔道整復学・実技編　改訂第２版」全国柔道整復学校協会監修　南江堂
参 考 書	「認定実技審査要領　令和４年度改訂版」公益財団法人柔道整復研修試験財団
成績評価	実技試験、出席状況（欠席：－５点、遅刻：－３点）で評価する。
留意事項	実技実習受講についての注意事項に準ずる。

科目の目標	認定実技審査項目を学習し、診察法・固定法・検査法のスキルアップを図り臨床に必要な技術と知識を身に付ける。
授業概要	認定実技審査項目に沿って授業項目を選別していく。

日程

回　数	授業内容
1	鎖骨定型的骨折の診察及び整復
2	上腕骨外科頸外転型骨折の診察及び整復
3	コーレス骨折の診察及び整復
4	肩鎖関節上方脱臼の診察及び整復
5	肩関節前方烏口下脱臼の診察及び整復
6	肘関節後方脱臼の診察及び整復
7	肘内障の診察及び整復
8	肩腱板損傷の診察及び検査法
9	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察及び検査法
１０	復習①（整復法）
１１	復習②（整復法）
１２	復習③（検査法）
１３	総復習
１４	定期試験①
１５	定期試験②
１６	試験解説、授業総括

科　目	柔道整復応用実技Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	３２
		履修年次	３年次
		実施学期	前期
教 員 名	佐藤　篤史	教員区分	一般教員

教 科 書	「柔道整復学・実技編　改訂第２版」全国柔道整復学校協会監修　南江堂
参 考 書	「認定実技審査要領　令和４年度改訂版」公益財団法人柔道整復研修試験財団
成績評価	実技試験、出席状況（欠席：－５点、遅刻：－３点）、授業態度で評価する。
留意事項	実技実習受講についての注意事項に準ずる。

科目の目標	認定実技審査項目を学習し、診察法・固定法・検査法の技術向上を図り臨床に必要な技術と知識を身に付ける。
授業概要	認定実技審査項目に沿って授業項目を選別していく。

日程

回　数	授業内容
1	膝関節側副靭帯損傷（絆創膏固定）
2	足関節外側靭帯損傷（絆創膏固定）
3	足関節外側靭帯損傷（局所副子固定）
4	ハムストリングス損傷
5	大腿四頭筋打撲
6	膝関節側副靭帯損傷
7	膝関節十字靭帯損傷
8	膝関節半月板損傷
9	下腿三頭筋損傷
１０	足関節外側靭帯損傷
１１	復習①
１２	復習②
１３	総復習
１４	定期試験①
１５	定期試験②
１６	試験解説、授業総括

科　目	柔道整復臨床実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1（前期）
		時 間 数	45
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教 員 名	岩坪　弘之　他	教員区分	実務教員

教 科 書	「柔道整復・実技編　改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修　南江堂 「柔道整復・理論編　改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修　南江堂
参 考 書	プリント資料を配布する。
成績評価	レポート提出、出席状況、授業態度などで総合的に評価を行う。
留意事項	臨床実習要綱を把握すること。

科目の目標	正確な鑑別能力を養いながら、基本的な臨床力を身に付けることを目的に学習する。
授業概要	臨床に必要な内容を理解した上で、附属施術所において臨床的な授業を行う。

実務経験	柔道整復の実務に3年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を活かして、学生に基本的な臨床力を身に付けさせる。

日程

回　数	授業内容
1・2	臨床模擬、問診～初期施術法、後療法の組み立て、接骨院受付業務、 患者誘導、施術準備、施術補助、物理療法機器操作、 血圧測定・体力測定補助、ロールプレイング
3・4	
5・6	
7・8	
9・10	
11・12	
13・14	
15・16	
17・18	
19・20	
21・22	
23・24	